

TOP NEWS

平成 28 年度北海道大学病院 地域連携懇話会を開催



北海道大学病院は、平成 28 年 11 月 5 日（土）午後 3 時からニューオータニイン札幌「鶴西中の間」において、平成 28 年度北海道大学病院地域連携懇話会を開催しました。本懇話会は、地域医療連携の現場において ICT の導入が日増しに加速する中、本院と関連の深い地域医療機関の関係者との相互の連携強化に向け、共に考える機会として企画しました。

はじめに当院 實金清博 病院長の挨拶の後、当院 渥美 達也 地域医療連携福祉センター長から、同センターにおける地域連携の取組について詳細な紹介がありました。引き続き、当院 遠藤 晃 医療情報企画部部長から、地域医療連携の場における「ICT ネットワーク技術開発の動向」について講演があった後、手稲溪仁会病院 木ノ下 義宏 消化器外科副部長から「手稲溪仁会病院における診療情報連携システム ID-Link の活用」、札幌白石記念病院 高橋 明 院長から「FileMaker Pro を活用した医療連携～現状と今後～」、市立函館病院 下山 則彦 副院長から「Medika の発展と将来展望」、北海道大学 COI 拠点プロジェクトリーダー 吉野 正則氏から「おかげさま・お互いさまのまちづくり～自立型地域包括ケアと地域医療連携～」について、個々に詳細な紹介がありました。

当日は 78 名（学外 53 名・学内 25 名）の参加者があり、講演後の質疑応答、そしてその後の懇親会まで、盛況のうちに本懇話会を終了しました。



實金 病院長（左上）、渥美 地域医療連携福祉センター長（右上）
遠藤 医療情報企画部部長（左中）、手稲溪仁会病院 木ノ下 消化器外科副部長（右中）
市立函館病院 下山 副院長（左下）、北海道大学 COI 拠点 吉野 氏（右下）

循環器内科外来診療の紹介

循環器内科では、虚血性心疾患、不整脈、心筋症、弁膜症、希少疾患（心臓）や先天性心疾患などの心疾患、これらの心血管病の危険因子となる高血圧など幅広い循環器疾患を対象とし、ご紹介いただいた患者さんに質の高い安全・安心の循環器医療を提供することを目指して、日々の診療に取り組んでいます。循環器領域の多岐にわたる診断法と治療法の進歩により、近年、患者さんの生命予後は目覚ましく改善し、旧来の医療では回復が望めなかった重症患者さんでも社会復帰する機会が著しく増加してきています。このような背景の中で、患者さんの生活の質を向上させ社会復帰に導くために、心臓リハビリテーションの役割が重要になってきています。一方で、あらゆる疾患の終末像としての心不全は重症化・難治化し、大きな社会問題となっています。この心不全に関しても、薬物治療を基本として、心臓再同期療法（CRT）などの非薬物療法、心臓移植に取り組んでいるところです。

当科の特色について

1. 心臓カテーテル法

当院では、患者さんの「症状の改善」はもちろんのこと、「長期予後を重要視した有意義な治療を行うこと」を前提に、ガイドラインに準じた適切な診断と治療を行っています。高齢者の硬化性大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁治療を積極的に施行しています。

2. 不整脈・電気生理学

難治性不整脈に対する薬物治療、カテーテルアブレーション（心筋焼灼術）、植込型除細動器（ICD）や CRT に取り組んでいます。近年、心房細動に対するカテーテルアブレーションの有用性が認識されています。発作のコントロールが難しい症候性の発作性心房細動では、左房径が大きくなならないうち（50mm 未満）にご紹介下さい。4 割では 2 回の治療を要しますが、8 割以上の根治・著効が期待できます。

3. 心臓診断学（画像診断）

当院では、最新鋭の心エコー装置、CT、MRI、RI 装置を駆使して、最高水準の画像診断を行っています。本年には 320 列の CT が導入され、冠動脈をはじめとする心臓の画像が今まで以上に高画質になりました。また、冠動脈 CT と心筋シンチグラフィのフュージョンにより、より正確な病態把握が可能となり、治療方針の決定に活かしています。MRI も最新鋭の装置（3 テスラと 1.5 テスラ）が導入されており、冠動脈や心筋の性状、心機能などを 1 回の検査で同時に評価することができ、臨床で威力を発揮しています。心サルコドローシスや心アミロイドーシス等の希少疾患（心臓）の診断をさせていただきます。

4. 心臓リハビリテーション

現在、虚血性心疾患、慢性心不全、開心術後などに心臓リハビリテーションが適応となります。最近では、心不全の急性期からリハビリテーションを導入することが推奨されています。当院では、医師、理学療法士、看護師のチームで、入院患者だけではなく、外来患者にも対応しています。

患者さんの紹介について

1. 患者の紹介

医事課新来予約受付担当・紹介予約（Tel 011-706-6037）
（Web：北海道大学病院＞医療関係者の方＞予約について）

2. 検査入院の予約（ただし、北大出張医限定）

入退院センター（Tel 011-706-5639）

3. 心筋血流 SPECT（安静、負荷）、心筋 MIBG、心臓 FDG-PET（読影レポートと画像）の予約

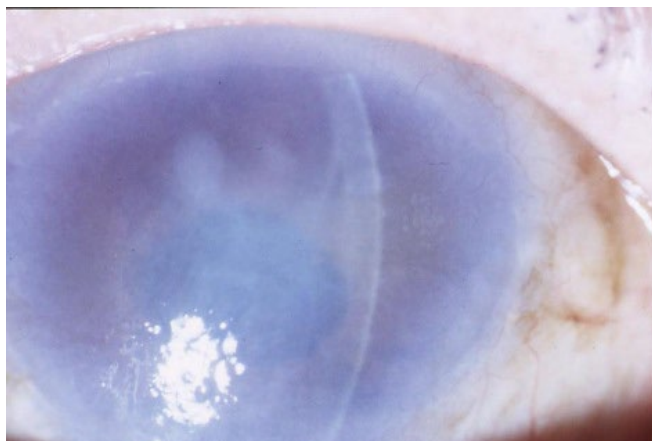
医事課新来予約受付担当・紹介予約（Tel 011-706-6037）
（Web：北海道大学病院＞医療関係者の方＞予約について）

角膜移植の進歩 ～パーツ移植～

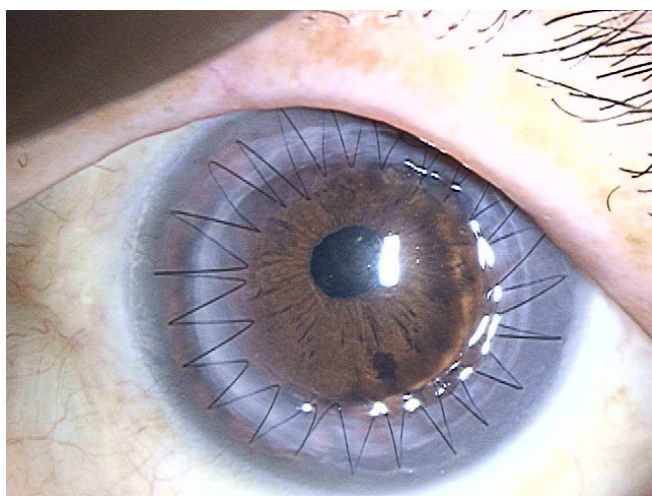
北海道大学眼科「角膜移植外来」を紹介させていただきます。角膜は主に上皮、実質、内皮で構成されていますが、角膜に混濁や浮腫が生じると著しく視力が低下します。点眼などの治療が奏効しない場合、角膜移植術が必要となりますが、以前は角膜のどの部位に混濁や浮腫が生じようが全層角膜移植が行われていました。しかし近年、角膜の悪い部分のみを移植する「角膜パーツ」移植という概念が広がり、より低侵襲で拒絶反応も軽減でき、かつすみやかな視力改善が期待できる手術が可能となりました。角膜移植術が必要となる原因として最も多いのは白内障術後による水疱性角膜症です。これに対し近年では角膜内皮移植術が主流となっています。この手術は前房内（角膜と水晶体の間）に挿入した角膜内皮移植片を空気によるタンポナーゼで生着させることができます。つまり、縫合が不要ですので、縫合糸による感染などの合併症がありません。また、惹起乱視がほとんどないため、術後視力も全層移植に比べ良好で、視力改善もすみやかです。角膜の浅層にのみ混濁がある場合は、角膜の表層を切除し、その厚みにトリミングした角膜片を移植する表層角膜移植が行われます。これは、closed surgery であり、術中の重篤な合併症が少なく、保存角膜でも手術が可能というメリットがあります。また、患者さん自身の内皮細胞を温存できるため、術後拒絶反応は通常生じず、低侵襲でもあるため術後早期の退院が可能です。

一方で、角膜移植医療の大きな問題点として、慢性的なドナー不足があげられます。生前に眼球提供の意思（またはご家族の意思）があった方から眼球を摘出し、強角膜切片を作成し、移植するのが本来の形です。しかし、特に北海道は全国に比べ眼球提供が少なく、移植待機患者が一時増加の一途をたどりました。登録から手術まで 10 年近くかかる方もいて、中には移植が施行されないままお亡くなりになってしまった方がいた現実もありました。この現状を解消すべく、北海道大学病院眼科では、輸入角膜システムを導入し、受診から 1 ヶ月程度で手術が可能となりました。もちろんこれまで通り、道内で提供があった角膜も有り難く移植させていただいております。

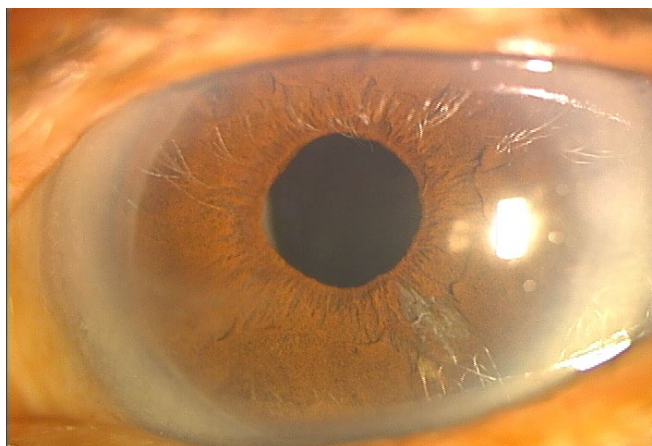
「角膜移植外来」と標榜しておりますが、手術患者さんだけでなく、ドライアイ、角膜潰瘍、円錐角膜、角膜ヘルペスなど内科疾患にも対応しておりますので、患者さんがいらっしゃいましたら、北海道大学眼科をご紹介しますと幸いです。



水疱性角膜症



全層角膜移植後



角膜内皮移植後

安全な周産期医療を目指して

私たちは、妊娠と分娩という人生の大切な時間を、妊婦さんとおなかの中の赤ちゃん、ご家族に寄り添い、専門的な知識や技術を提供できることに喜びを感じています。特に当院では合併症をお持ちの方などのハイリスク妊娠の管理や早産あるいは先天異常を持った赤ちゃんなど専門的な診療が必要な方にとって最後の砦としての役割を果たしていると自負しています。また、当科ではハイリスクだけでなくローリスクの方々にも私たちの目指す安全な妊娠分娩管理を提供したいと考えています。

産科の初診は毎週火曜日と金曜日で、教授／准教授が担当しています。再診には全ての方が受診する一般外来「一般産科外来（産科妊婦外来、産科特殊健診外来）」と産後・避妊外来」と希望者のみが受診する専門外来「遺伝・出生前診断外来と胎児心エコー外来」があります。

一般産科外来（産科妊婦外来、産科特殊健診外来）

毎週月・水・木曜日

産科婦人科専門医の資格をもつ医師が妊婦外来を担当します。グループ診療体制をとることによって、早産や妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、合併症妊娠といったハイリスク症例も日々行われるカンファレンスですべての医師が情報を共有することで、個々の患者さんに最適な治療方針を提供しています。また、新生児期に治療が必要なケースや母体の危険性が高いケースについては産科と NICU だけでなく多くの関連診療科が連携します。



カンファレンスのようす



産後・避妊外来

毎週金曜日

産後の回復を確認するだけでなく、将来にわたる女性の健康のための管理をおこなっています。高血圧や妊娠糖尿病などのフォローアップの他に、子宮癌検診を行っています。そして、他科での治療が必要な場合には専門医へご紹介致しております。

遺伝・出生前診断外来

毎週火・水・木曜日

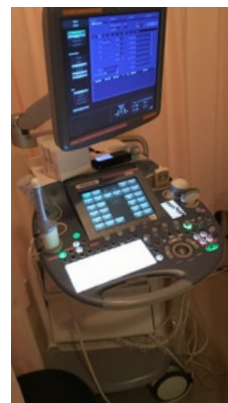
北大産科では臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーが完全予約制のもとで遺伝カウンセリングを実施しています。産科／周産期領域だけに限らず様々な遺伝に関わるご相談や出生前の染色体あるいは遺伝子診断を考慮されている方のご相談に對し対応します。また、通常の健診以上に時間をかけて赤ちゃんに異常がないかを詳細に診て欲しいというご希望のある方には健診とは別の自費診療として「胎児超音波検査」を提供しています。

胎児心エコー外来

毎週木曜日

胎児の心臓に特化した外来です。先天性心疾患治療の北海道の拠点として赤ちゃんの心臓病について詳しい検査を行い、出生前から病気や治療についてご両親に知って頂くとともに、重症の心臓病を持った赤ちゃんが出生後により安全で良い治療が受けられるように準備をさせていただきます。

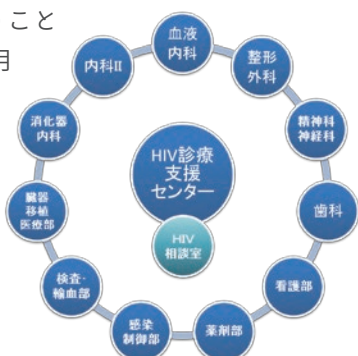
北大産科ではいつでも症例のご紹介をお待ちしています。ハイリスク症例の場合には外来医長まであらかじめご相談いただくと受診がスムーズですのでどうぞよろしくお願いいたします。



HIV 診療支援センターのご紹介

当院は、1997 年 4 月に「エイズ診療ブロック拠点病院」として指定されて以来、HIV 感染症 / エイズ診療に積極的に取り組んでいます。これまで HIV 感染症対策委員会が主体となり、診療体制の強化を図り、院内や他の医療機関の職員に対してもエイズ診療に関する継続的な研修を行ってまいりました。

この度、院内の複数部署の連携を基に患者さんのさらなる包括的な診療、支援を行うことを目的として、2016 年 7 月 1 日に HIV 診療支援センターが設置されました。センター長及び副センター長統括のもと、HIV 相談室が中心となり院内の関係部署と連携して診療支援を行っています。



HIV 診療支援センターの構成

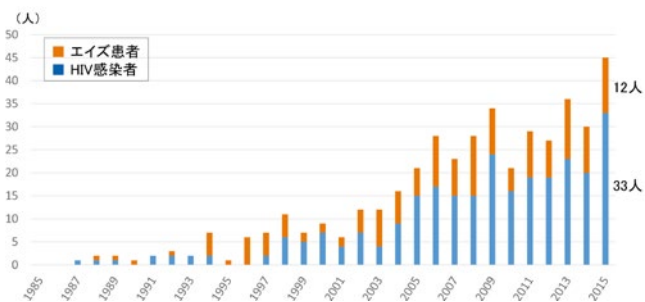
エイズ診療ブロック拠点病院とは

1996 年 3 月の薬害 HIV 原告団と厚生省の間の和解条項が端緒となり、国内のエイズ医療体制が整備されることになりました。全国には約 370 のエイズ治療拠点病院が選定され、全国の 8 ブロックにエイズブロック拠点病院がそれぞれ設置されています。エイズブロック拠点病院は、エイズに関する高度な診療を提供しつつ、臨床研究、拠点病院等の医療従事者に対する研修、医療機関及び患者さんからの診療相談への対応等の情報を通じ、ブロック内のエイズ医療の水準の向上及び地域格差の是正に努める責務を担っています。

HIV 感染症の動向について

厚生労働省による報告では、北海道における 2015 年 1 年間の新規 HIV 感染者は 33 人・エイズ患者は 12 人合計 45 人で過去最多でした。北海道における 2015 年 12 月末までの累積人数は、HIV 感染者 271 人・エイズ患者 158 人で合計 429 人となりました。なお日本全体では 2015 年 1 年間の新規 HIV 感染者 1,006 人・エイズ患者 428 人合計 1,434 人で、累積報告数は 25,995 人となりました。日本全体の新規 HIV 感染者及びエイズ患者報告数は 2014 年に引き続き減少している一方で、北海道の新規報告数は過去最多となり増加しております。

2016 年は 10 月末時点で過去最多だった昨年と同様のペースで増えております。



北海道の新規 HIV 感染者およびエイズ患者数

HIV 相談室の活動

当センターには窓口として HIV 相談室があります。

HIV 感染症は生命予後の改善により長期療養時代を迎え、地域の医療機関や福祉サービス事業所等との連携がますます重要となっています。HIV 相談室は患者さんとその家族やパートナーの方だけでなく、地域からの電話相談や、他の医療機関からの問い合わせ等、相談窓口としてご利用いただいております。また、歯科、透析施設、福祉サービス事業所のネットワーク登録制度を構築しており、患者さんのニーズに迅速に対応しています。さらに要請のあった医療機関・福祉サービス事業所等向けに HIV 出張研修を実施しており、毎年多数のご施設より申込みをいただいております。2011 年 12 月から開始し 2016 年 11 月時点で 146 件、約 8000 人に研修を行いました。その他にも北海道内の HIV 診療の水準向上・均てん化を目的とした研修会を毎年開催しております。またウェブサイトを作成し、一般の方・医療者向けに最新の情報提供もしております。



ウェブサイト 北海道 HIV/AIDS 情報 <http://hok-hiv.com/>

連絡先

北海道大学病院 HIV 診療支援センター HIV 相談室

〒060-8648 札幌市北区北 14 条西 5 丁目

TEL: 011-706-7025 (直通)

スタッフ在室時間：月～金（祝祭日を除く）8:30～17:00

口腔ケア連携センターのご紹介

当センター開設までの経緯

北海道大学病院歯科診療センターでは既に 10 年前から口腔ケアチームを発足させ、医科病棟入院患者の歯科往診を行い、がんや臓器移植患者の周術期の口腔ケアを積極的に行ってきました。平成 26 年からは従来のチームに予防歯科が加わり、受け入れ対象をがん治療・ビスホスホネート製剤や抗 RANKL 抗体製剤などによる治療・その他疾患の治療で歯科外来通院可能な患者までに広げて、口腔ケアを行うようになりました。この口腔ケアチームの活動実績が認められ、本年度から「口腔ケア連携センター」となりました。口腔ケア連携センターでは医科歯科連携の強化推進を掲げ、歯科診療センター全診療科の協力のもと全身麻酔手術、血液・臓器移植、がん治療、その他疾患などで口腔合併症予防が必要な患者の専門的な口腔ケアに取り組んでいます。



関係歯科診療科と外来スタッフのミーティング

口腔ケアとは

口腔内には数百種類と言われるほどの細菌が存在し、その中にう蝕（むし歯）や歯周病の原因となる細菌も含まれています。歯の表面に付着している歯垢は細菌とその産生物の集合体で、歯垢 1mg（湿重量）に 1～2.5 億個の細菌などの微生物を含み、歯垢中の細菌は体内最高の密度とされています。また細菌の産生物の存在が歯垢の粘稠性を高めます。このような特徴から歯垢は「うがい」程度では除去ができず、ブラッシングのような機械的な除去が必要となります。また自分ではブラッシングしたつもりでも実際には磨き残しがあり、歯垢が取り除けていないこともあります。このような細菌が原因となる種々の疾患を予防するため、口腔清掃や清掃指導・口腔粘膜の保湿・必要に応じた治療などを行い、口腔環境を

整えることや口腔機能を維持・改善することを「口腔ケア」と呼びます。口腔ケアを行うことで抗菌薬などの薬剤使用量や入院日数の減少などの効果が期待できるとわれています。

当センターの主な役割

外来は予防歯科・口腔内科、往診は口腔内科・高齢者歯科などの診療科が中心となり対応しています。

① 化学療法や放射線治療による口内炎などの口腔粘膜炎やビスホスホネート製剤などによる顎骨壊死のような口腔合併症の予防

② う歯や歯周病などの口腔疾患の予防

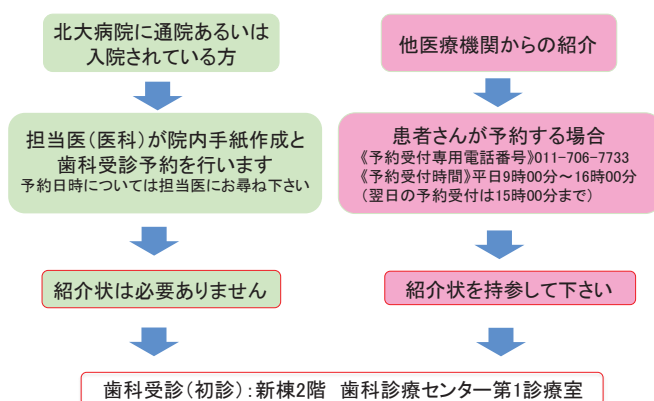
可能な限り歯を保存することで食物の摂取を容易にし、患者の QOL 向上につなげています。

③ 口腔細菌による術後の肺炎や手術部位の感染などの予防

④ 全身麻酔時に問題となる動揺した歯などの発見

全身麻酔の合併症の一つである歯牙損傷の予防。破折の可能性がある歯や重度な歯周病に見られる動揺歯などの確認を行っています。

当センター受診までの流れ



さいごに

歯科診療科全科協力のもと頑張っています。今後ともよろしく願いいたします。

がんに関する市民公開講座を開催しました

本院では、がん診療連携拠点病院機能強化事業の一つとして、がん患者及びその家族の皆さん、またがん治療に興味のある市民の皆さんを対象に、本院が行っているがんに対する治療法を市民に紹介するための市民公開講座を、がん種別に定期開催しており、平成 28 年度は、胃がん・食道がん、乳がん、肺がんの計 3 回開催しました。

また、本院は小児がん拠点病院にも指定されているため、小児がんに関する諸問題について市民に紹介し、本院における診療活動を広く広報することを目的とした市民公開講座も毎年 1 回開催しています。

次年度も同様の市民向け公開講座開催する予定ですので、ポスター掲示等による患者の皆さまへの周知を今後ともよろしくお願いいたします。



会場の様子
(乳がん市民公開講座)



昭和大学大学院保健医療学研究科
准教授・副島 賢和氏の講演
(小児がん市民公開講座)

腫瘍センター 患者サロンのご案内

北海道大学病院腫瘍センターの患者サロンでは、がん患者やそのご家族皆様が対象に、カフェなど各種交流イベントを開催しています。各イベントの詳しい情報は、北海道大学病院腫瘍センターのウェブサイト (<http://cancer.huhp.hokudai.ac.jp/>) でご確認ください。

がんサロン「なないろ」 毎月第 3 金曜日

概要 がん患者さんと家族のためのサロンです。 **次回** 平成 29 年 3 月 17 日 (金)
13:30 ~ 15:00

「わかばカフェ」 毎週月曜日

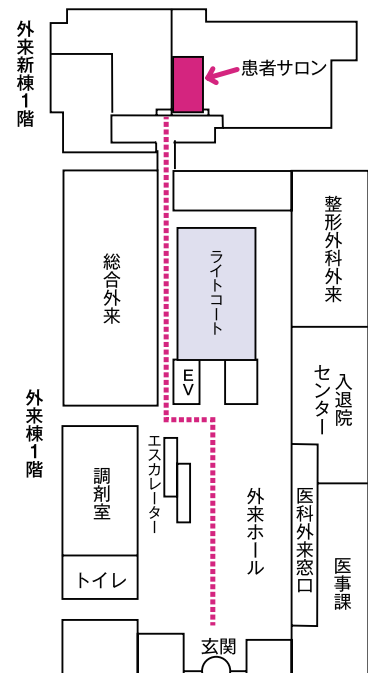
概要 子育て世代のがん患者さんのための患者サロンです。 **次回** 毎週月曜日 (祝日を除く)
14:00 ~ 16:00

「ことりカフェ」 不定期開催

概要 親ががんで闘病中の子どもたちを対象とした交流イベントです。 **次回** 平成 29 年 3 月 31 日 (金)
13:00 ~ 15:00
※参加申込は 3 月 24 日 (金) まで。
担当: 蛭田 (011-706-7770)

「ゆるりサロン」 月 1 回 (不定期)

概要 小児がん患者さんのご家族のためのサロンです。 **次回** 平成 29 年 3 月 10 日 (金)
13:30 ~ 15:00
※参加申込不要、託児は要事前申込。





北海道大学病院 地域医療連携福祉センター 地域連携研修会のご案内

連携医療機関の皆様へ最新の医療情報をお届けするとともに、医療機能連携の強化を図ることを目的として、北海道大学病院 地域医療連携福祉センター第3回地域連携研修会を開催いたします。参加希望の方は、必要事項を記載の上、EメールかFAXにて、3月13日（月）までに下記申込み先へお送りください。

日 時 平成 29 年 3 月 15 日（水）19:00 ～ 20:30
場 所 北海道大学医学部臨床講義棟 第3講堂（札幌市北区北14条西7丁目）
総司会 北海道大学病院 地域医療連携福祉センター長 渥美 達也

講演1（19:10～19:30 質疑応答含む）

座長 北海道大学病院 地域医療連携福祉センター長 渥美 達也
『医療情報ネットワーク』
北海道大学病院 医療情報企画部長 遠藤 晃

講演2（19:30～20:30 質疑応答含む）

座長 北海道大学病院 循環器内科 講師 横式 尚司
『心房細動の治療 内服薬からカテーテルアブレーションまで』
北海道大学病院 循環器内科 助教 三山 博史

申込み・問合せ先

北海道大学病院
医療支援課 地域医療連携係
TEL:011-706-5629 FAX:011-706-5630
Eメール：itiiki@jimu.hokudai.ac.jp



編集 後記

昨年12月より小児がんソーシャルワーカーとして勤務しております上原亜矢と申します。患者様やご家族様が安心して入院生活が送れるよう支援していきたいと思っております。慣れない部分が多く、ご迷惑をお掛けすることが多々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

発行 平成29年2月

北海道大学病院
地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目
TEL：011-706-7943（直通）
FAX：011-706-7945（直通）
<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/>